

「みんなで弁証推論」教育セッション

コロナ時代の感冒診療オンラインシミュレーション ～外来診療における東西両医学からのアプローチ～

ともともクリニック 木村朗子
TOMOTOMO (友と共に学ぶ東西医学研修の会) 石川家明

【はじめに】

2020年、世界中で多大な影響力をもつ新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行している。このウイルスは潜伏期が長いこと、無症状患者や軽症患者が多いこと、重症化すると生命を脅かす肺炎などを起こす一方で、宿主のヒトにとっては巧妙に広がる特性を持つウイルスである。それゆえ、抑え込むことがとても困難であることがわかってきている。

この非常に立ち向かいにくいウイルスに、現代医学も中医学も奮闘してきた。そして、現時点では決定的な特效薬はなく、ワクチンの開発にも年単位の時間がかかることが予想されている。検査もいまだ決定的なものに乏しく、PCR検査、抗原検査、抗体検査などあるものの感度特異度、簡便性、迅速性、コスト、臨床的意義など検討すると、どれも一長一短である。

その局面にある現在、普通感冒の臨床推論（臨床現場での理論的鑑別診断方法）が今まで以上に重要になってきている。それは、現代医学的にも、中医学的にも、である。COVID-19患者、無症候感染者、他の感染症を持つ者、単に不安な者などが外来で訪れるからである。第一線の現場（プライマリケア）で、感冒の投薬や健康相談や鍼灸治療を漠然と行うわけにはいかない時代になった。

【ワークショップの内容】

そのため、今回のワークショップは、クリニック、薬局、鍼灸院に敷居低く訪れる「何らかの初期症状」をもつ人たちから、どのようにして症状を引き出し、感冒やその周辺疾患と鑑別して、記録に書くまでを学ぶ。

特に、COVID-19患者であった場合に、その軽重を適切に判断できること、また在宅療養患者などの適切な管理などを学び、肺炎などの重症化を防ぐ判断ができることが目標である。

それらを実症例の記録を示しながら、体感していただけるようクリニック、薬局、鍼灸院で働く初心者向けの教育セッションである。

私たちは、中医学が当初から学理として含有している“臨床推論”をあえて「弁証推論」と命名して、現代医学の「臨床推論」と合わせてできる診察法を提唱している。